

ビジネスパーソン調査2020 DATA BOOK Part 2 ビジネスパーソンの仕事意識

2021年1月14日



株式会社ゼイアール東海エージェンシー

P2～ ピックアップレポート

vol.1 コロナ禍における働き方と価値観

コロナ禍でテレワークに順応した若手と、
非対面の課題に直面している管理職

vol.2 仕事・働き方についての価値観 1

コロナ禍で会社や仕事にゆれるミドル男性、
仕事に意欲的な若年女性

vol.3 仕事・働き方についての価値観 2

職場環境が向上。転勤・出産に縛られず、
柔軟に仕事に向き合う女性が増す

P6 調査概要

P7 1. コロナ禍における働き方と価値観

- P8 ・今現在ほぼ毎日出社している（原則しなければならない）
- P8 ・今現在ほぼ毎日出社している（自分の意思で出社を選択している）
- P9 ・週の半分以上は今後ずっとリモートワークや在宅勤務になる予定だ
- P9 ・在宅勤務やリモートワークの方が効率が良い
- P10 ・ある程度の出社は必要だと感じている
- P10 ・オンラインの打ち合わせより対面で打ち合わせの方が効率が良い
- P11 ・ワーケーションなども取り入れたい・取り入れている
- P11 ・今後郊外や田舎に引っ越すことも検討したい（あるいは既に引っ越した）

- P12 ・大事な打ち合わせや出張は必要だ
- P12 ・対面での打ち合わせができずに困ったことがある・困っている
- P13 ・自分の会社は新型コロナウイルス感染症の流行下ですばや
い対応ができた方だ
- P13 ・自分の会社の新型コロナウイルス感染症の流行下の対応が
悪く不満がつつあった
- P14 ・在宅勤務やリモートワークが導入されたことで勤務の管理
が大変になった
- P14 ・在宅勤務やリモートワークが導入されたことで勤務管理や
人事評価に不満がある

P15 2. 仕事意識

- P16 仕事意識①
- P16 ーキャリア、職場環境、家庭等に関する意識
- P17 ー過去比較
- P18 仕事意識②
- P18 ー会社と仕事、働きやすさ等に関する意識
- P19 ー過去比較

P20 3. 法人向けITサービス

- P21 認知しているサービス
- P22 会社で導入しているサービス
- P23 自身で利用しているサービス
- P24 感染症流行下で導入されたサービス
- P26 対象者属性－職業
- P27 対象者属性－業務内容
- P28 対象者属性－役職
- P29 対象者属性－所属する会社の従業員規模

ピックアップレポート vol.1~4

東名阪の主要都市圏在住のビジネスパーソン約2,000人を対象とした「ビジネスパーソン調査2020 ※11月実査」。今回は、ビジネスパーソンの新型コロナウイルス感染症流行下での働き方に関する意識や実態についてご紹介します。

データ参照ページ…[P9-11,14](#)

コロナ禍でテレワークに順応した若手と、非対面の課題に直面している管理職

本格的なコロナ禍となり半年以上が経過した今、改めてビジネスパーソンの仕事意識を見てみると、出社の必要性や対面での打ち合わせの効率の良さを再認識していることがわかりました。ただし、デジタルネイティブであり実務担当世代でもある20代男女は『在宅勤務・リモートワークの方が効率が良い』割合が高いほか『ワーケーション等』への関心もあり、テレワークに意欲的でした。一方、管理職・経営層では『対面打ち合わせの方が効率が良い』が非常に高い結果に。コロナ禍をきっかけに、テレワークに順応した若手と、非対面でのマネジメントという課題に直面した管理職との違いが浮き彫りになりました。

ソーシャルメディア利用状況

Q新型コロナウイルス感染症の流行を受け、変化したことやあなたのお考えに近いものをお選びください。※「あてはまる」「ややあてはまる」計(%)

『ある程度の出社は必要だと感じている』は全体で62.3%となり年齢が上がるほど割合が増加します。また管理職・経営層および従業員規模の大きな会社に従事している人で高い傾向が見られます。『オンラインの打ち合わせより対面で打ち合わせした方が効率が良い』は全体38.5%で、こちらも管理職・経営層や従業員規模の大きな会社の人が高い値となりました。『在宅勤務やリモートワークの方が効率が良い』は全体で19.0%にとどまるものの、若年層で高い傾向があり、男性20代・女性20代では3割近い値となりました。『ワーケーションなども取り入れたい・取り入れている』については『在宅勤務やリモートワークの方が効率が良い』の回答者と同様傾向となり、20代男女や管理職・経営層で高めにしています。『在宅勤務やリモートワークが導入されたことで勤務の管理が大変になった』でも、管理職・経営層や従業員規模の大きな会社の人が高い傾向にあり、2割を超える結果となりました。

全体値+5ポイント以上

全体値+10ポイント以上

		ある程度の出社は必要だと感じている	オンラインの打ち合わせより対面で打ち合わせした方が効率が良い	在宅勤務やリモートワークの方が効率が良い	ワーケーションなども取り入れたい・取り入れている	在宅勤務やリモートワークが導入されたことで勤務の管理が大変になった
全体(WB)	2263	62.3	38.5	19.0	17.2	16.1
男性20代	220	52.7	35.0	27.7	25.0	24.1
男性30代	216	58.3	42.6	22.2	18.5	18.5
男性40代	231	58.0	35.5	15.2	16.5	16.5
男性50代	234	66.7	44.4	16.7	15.0	12.8
男性60代	237	73.8	42.6	11.8	13.1	19.4
女性20代	212	57.1	33.0	28.8	28.8	14.2
女性30代	228	70.6	38.6	21.1	16.7	13.6
女性40代	239	64.4	35.6	17.6	12.6	11.3
女性50代	225	66.7	37.8	15.1	12.9	15.1
女性60代	221	64.3	36.2	10.9	7.2	11.3
非管理職	1949	61.2	36.4	18.1	15.5	14.3
管理職・経営層	314	77.1	49.4	21.7	22.3	23.9
従業員規模						
100人未満	829	59.2	36.4	14.6	12.3	10.5
100-999人	570	68.6	37.2	22.6	19.5	18.8
1,000-4,999人	254	70.1	42.9	22.8	24.4	19.7
5,000人以上	361	70.1	51.0	24.1	21.9	24.4

※非管理職層…役職なし/主任クラス/係長クラス、管理職・経営層…課長クラス以上と設定

東名阪の主要都市圏在住のビジネスパーソン約2,000人を対象とした「ビジネスパーソン調査2020 ※11月実査」。今回は、コロナ禍でヒアリングしたビジネスパーソンの“仕事意識”について2018年との比較も交えてご紹介します。

データ参照ページ…[P16-17](#)

コロナ禍で会社や仕事にゆれるミドル男性、仕事に意欲的な若年女性

2018年と比較すると、男性30-40代で「同じ会社で働き続けたい」「給料以上の働きをしている」が減少。家庭をもつなどライフステージ変化が大きいこの世代の、コロナ禍での会社や仕事への不安定な気持ちが現れています。男性50-60代は「基本的に仕事が好き」が高く、男性20代は「望む仕事についている」が増加し「会社の中で出世したい」は減少。“好きな仕事”を認識した男性50-60代と、“会社に縛られず自分らしい働き方を追求したい”男性20代の様子も。女性は30-40代を中心に「同じ会社で働き続けたい」「仕事が好き」の割合が男性に比べて高く、20代は「会社の中で出世したい」が増加し男性同世代とほぼ同値に。男性に比べてより若い層に働くことへの前向きな姿勢が見られます。

仕事・働き方についての価値観

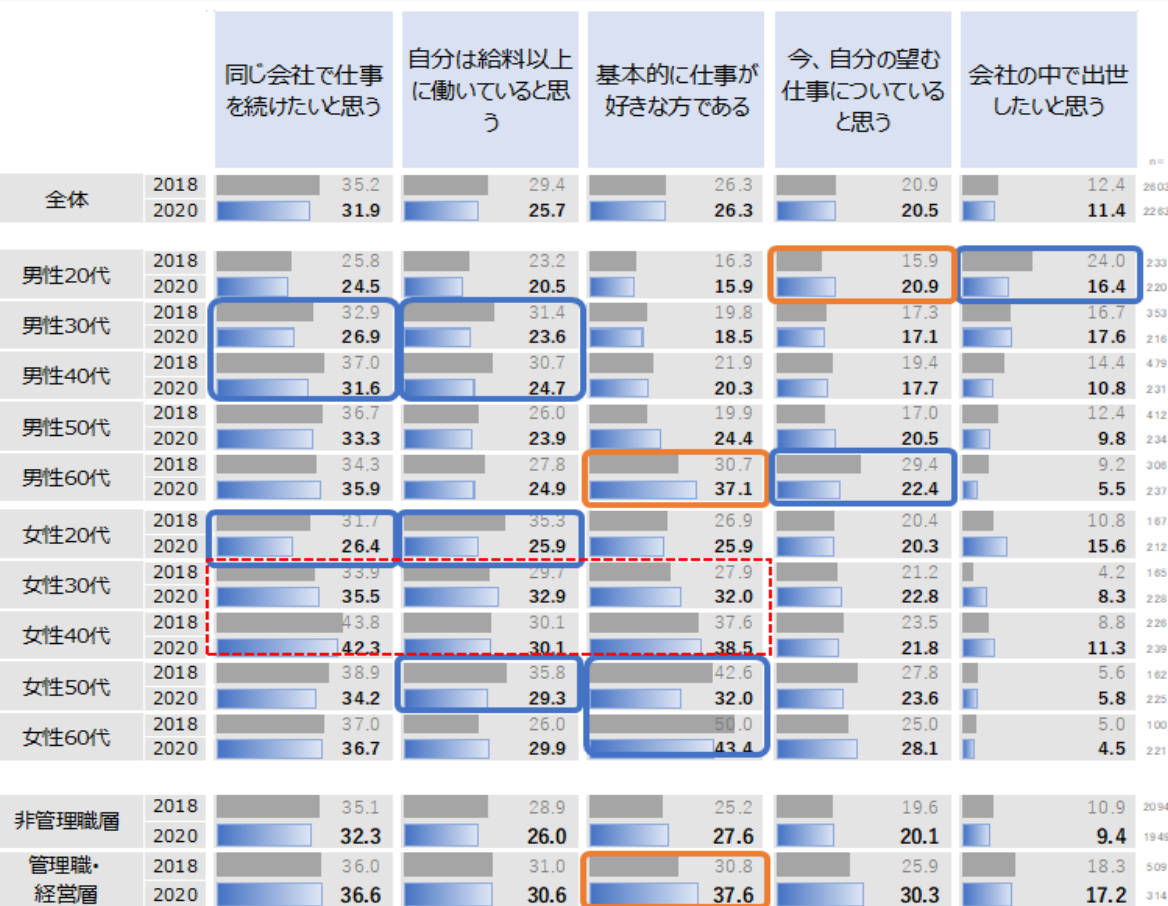
Q「仕事」について以下にあげた項目のうち、あなたご自身にあてはまるものをすべてお選びください。

「同じ会社で仕事を続けたいと思う」を年代別に見ると、男性は40-60代、女性は30-60代が高く、2018年と比較すると男性30-40代・女性20代で減少しました。「自分は給料以上に働いていると思う」では男性は全世代、特に30-40代の減少が目立ち、女性も20代・50代で減少。「基本的に仕事が好きである」は男性50-60代が高く、特に男性60代は顕著に増加。女性は男性に比べ全体的に値が高いものの、女性50-60代では2018年からの減少が目立ちました。また、「今、自分の望む仕事についている」は男性20代が増加し、2018年には突出して高かった男性60代が減少、男性の世代での差が小さくなりました。「会社の中で出世したいと思う」は2018年は唯一2割を超えていた男性20代が減少、その反面女性20代が増加した結果、20代では男女差がほぼなくなりました。

2018年比

+5ポイント以上

-5ポイント以下



※非管理職層…役職なし/主任クラス/係長クラス、管理職・経営層…課長クラス以上と設定

東名阪の主要都市圏在住のビジネスパーソン約2,000人を対象とした「ビジネスパーソン調査2020 ※11月実査」。今回は、コロナ禍でヒアリングしたビジネスパーソンの「仕事意識」について2018年との比較も交えてご紹介します。

データ参照ページ…[P16-19](#)

職場環境が向上。転勤・出産に縛られず、柔軟に仕事に向き合う女性が増す

“女性は出産後も仕事を続けるべき”という意識は、女性20-30代で減少しました。コロナ禍を経て、これからの出産・育児を考えた時、仕事だけではなく家庭に入ることも選択肢のひとつとして現実味を増したのかもしれませんが。「転勤になったら家族も同行した方がよい」も女性層を中心に大きく減少。配偶者の転勤や出産などに左右されず、より柔軟に仕事に向き合うようになった女性の様子がうかがえます。また、男女とも20-30代の若年層を中心に「休暇をとりにくい雰囲気がある」や「終業時間直後に帰りづらいと思う」が減少。2018年と比較して、働きやすさの向上を実感している若年層が多いようです。

仕事・働き方についての価値観

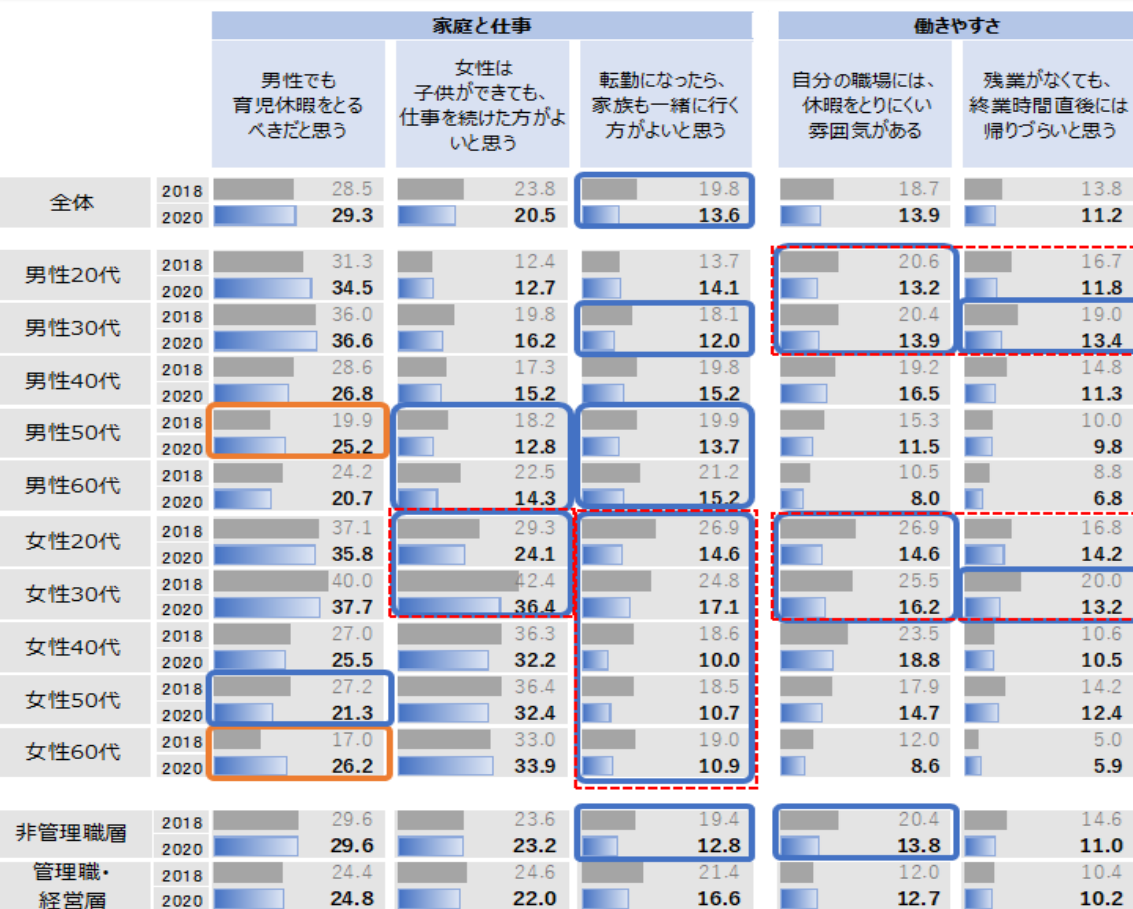
Q「仕事」について以下にあげた項目のうち、あなたご自身にあてはまるものをすべてお選びください。

『仕事と家庭』の面では「男性でも育児休暇を取るべきだと思う」は男女とも20-30代で3割を超え、2018年と比べて、男性50代・女性60代など上の世代でも増加。「女性は子供ができて、仕事を続けた方がよいと思う」は男性に比べ女性が全体的に高いものの、女性20-30代では2018年よりも減少。「転勤になったら、家族も一緒に行く方がよいと思う」はほぼ全ての世代で減少し、特に女性層は全世代で顕著に減少しました。『働きやすさ』の面では、「自分の職場には、休暇をとりにくい雰囲気がある」は男女とも20-30代や非管理職層で減少。「残業がなくても、終業時間直後には帰りづらいと思う」は男女とも20-30代で減少しました。

2018年比

+5ポイント以上

-5ポイント以下



※非管理職層…役職なし/主任クラス/係長クラス、管理職・経営層…課長クラス以上と設定

調査期間 : 2020年11月2日(月)～5日(木)

調査対象者 : 東名阪在住のビジネスパーソン

※ビジネスパーソン…総務省が定める「就業者」からパート・アルバイトを除いた対象者と定義

該当者 : 会社員(正社員)、会社経営・役員、公務員・団体職員、農林漁業、自営業・SOHO、

専門職(医師・弁護士等)、契約社員、派遣社員

非該当者：パート・アルバイト、学生(受験浪人)、専業主婦・主夫、無職

※首都圏：東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県

東海圏：愛知県、静岡県、岐阜県、三重県

関西圏：大阪府、京都府、兵庫県、奈良県

有効回答数 : 2,263サンプル
(割付)

	男性 20代	男性 30代	男性 40代	男性 50代	男性 60代	女性 20代	女性 30代	女性 40代	女性 50代	女性 60代	居住地別 合計
首都圏在住者	106	104	119	122	123	110	118	116	116	110	1,444
東海圏在住者	56	57	58	54	60	51	55	63	56	55	565
関西圏在住者	58	55	54	58	54	51	55	60	53	56	554
性年代別合計	220	216	231	234	237	212	228	239	225	221	

※2018年のデータは、2018年3月実査の同条件の対象者（n=2,603）での調査結果です。

※本レポート記載の「全体WB」値は、総務省「労働力調査(2020年10月)」の就業者数からパート・アルバイトを除いた母集団の性年代比率に合わせてウェイトバックをかけた値です。

◆総務省統計局「労働力調査（2020年10月）」就業者全体よりパート・アルバイトを除いた人口推計（万人）

男性20代	男性30代	男性40代	男性50代	男性60代	女性20代	女性30代	女性40代	女性50代	女性60代
401	564	701	589	374	331	335	382	292	145

調査方法 : インターネットリサーチ／インテージ社モニター

調査項目 : ・情報収集について【Part1】
・仕事意識について【Part2】
★消費意識について【Part3】

以降のデータは、フォーム入力後に
ダウンロードいただけます